

2004

都市ビル 環境の目



行事
プログラム

社団法人
福岡県ビルメンテナンス協会

都市ビル環境の日

10月4日「都市ビル環境の日」設定趣旨

コミュニティの快適な環境創造をめざして

都市は人類の生命活動から考えるならば、人々が交流するコミュニティと捉えることができます。

私たちビルメンテナンス業界は、ビルという構造物を単にメンテナンスするだけでなく、このコミュニティを常に快適な状態に維持しようと努めてきました。ビルで営まれるさまざまなコミュニティこそ都市機能の基盤であり、私たちは、そのコミュニティを安全かつ衛生的で、快適な環境に創り上げていくことを基本的な目的としています。したがって私たちは、コミュニティの結び付きで形成されてきた都市の環境全般に対しても無関心ではられません。個々のビルの快適環境だけでは、都

市環境はバランスを欠きます。個々のビルが所属する地域の環境を良好にしてはじめて、そのビルが地域コミュニティに存在する意味があると考えます。その積み重ねのなかで都市全体を快適な環境に創り上げ、市民が豊かで住みやすい街として愛することのできる都市に育てていかなければなりません。

私たち社団法人福岡県ビルメンテナンス協会は、自らの仕事が都市との強い結び付きのあることを考え、住みよい街づくりに貢献していくことを目的として、10月4日を「都市ビル環境の日」と定め、県民に都市の環境づくりを積極的にアピールしていきます。

2004 都市ビル環境の日

行事内容

シンポジウム

開催日時：平成16年10月5日（火）13：30～16：30

開催場所：九州エネルギー館

テーマ「ビル管理とリサイクル」

- | | | | |
|---------|-------------|--|---|
| 13：30 | 開会挨拶 | （社）福岡県ビルメンテナンス協会会長 | 青木 博志 |
| 13：35 | 来賓挨拶 | 福岡県知事
福岡市長
北九州市長 | 麻生 渡
山崎 広太郎
末吉 興一 |
| 13：50 | 基調講演 | 福岡大学 工学部 | 教授 松藤 康司 |
| 14：50 | 研究発表 | （社）福岡県ビルメンテナンス協会 | 青年部 |
| — 休 憩 — | | | |
| 15：30 | パネルディスカッション | | |
| | パネラー | 福岡大学 工学部
福岡市 環境局
福岡市ペーパーリサイクル協同組合
KBC開発（株） 不動産部
（株）旭商会 | 教授 松藤 康司
環境都市推進部長 兵藤 信彦
副理事長 脇野 賢一
課長 西田 俊郎
代表取締役専務 松本 正司 |
| | コーディネーター | （株）朝日ビルメンテナンス代表取締役社長 | 金子 誠 |
| 16：30 | 閉会挨拶 | （社）福岡県ビルメンテナンス協会 副会長 | 古賀 修 |

クリーン アップ福岡

日 時：平成16年10月4日（月）10：30～12：00

場 所：福岡県下主要都市中心部及び会員受託物件の周辺

行 事：公共施設の清掃及びゴミ収集

「ビル管理とリサイクル」

『都市ビル環境の日』シンポジウムは、1996年より一貫して環境問題とビルメンテナンス事業の係わりにテーマを置き、身の丈の目線で課題を検証してきました。

規制緩和の時流にあるなか環境問題に関する法制度だけは矢継ぎ早に成立・施行され、この問題がいかに重要な政策テーマ：国民的課題であるかが認識されるところとなりました。2000年、循環型社会の形成推進のために包括法としての「循環型社会基本法」が施行、翌年には“廃棄物の適正処理”や“リサイクルの推進”を目的とした促進法が整備され、ビルメンテナンス事業領域にも大きな責務が課せられることになりました。

この法体系が打ち出される以前の97年から二年連続で当シンポジウムは「都市とビル廃棄物」を主題とする討論を行っています。同年に制度創設されたエコタウン事業に先駆けての北九州市担当行政とのディスカッション展開や協会青年部による“事業系リサイクル・ネットワーク”の仮想企業設立提案などは、まさに循環型都市機能整備に向けての先駆的構想であったと考えます。

その後の経過のなかで、これらの構想もより具体的実践的に取り組まなければならない状況になってきました。本年度は、廃棄物処理などのビル管理業務とリサイクル再資源化との接点を構造化して検証を試みようと考えます。この課題を照射するとき、二つの側面からのアプローチとその統合完結が求められるでしょう。一つの側面は、建築物外の広域処理システムの観点であり、もう一つは建築物内の最適化収集分別作業の側面であろうと思います。ビル管理業務に携わる者としては、この二つの側面（機能）の非連続性に生産的処理活動を阻むものを強く感じています。

一方の側面（機能）だけが部分最適に改善されたとしても両方の機能が有機的に連動しなければ循環の輪は途切れてしまうでしょう。両側面の最適統合を目指す

き、常に障壁となるのがコスト管理の問題です。廃棄物＝ゴミ（不要物）を処理するという既成概念では、もはや継続運営は困難な時代です。リサイクル・システムは最終的に成果物（商品）を産み出すというような採算マネジメント可能な処理生産フローに整備される必要があります。このように製造業モデルに近い完結型が保全されれば、廃棄物はゴミ（不要物）ではなく、入口の工程の収集分別で材料となり、中間工程で資源化され、出口では商品として再生産出荷されることとなります。建築物内で厄介者扱いされるゴミの収集分別作業も、このサイクルの中では収集＝材料の量の確保・分別＝材料の質の向上という生産過程となり、そのコストも最終成果物（商品）に転化可能な処理生産フローとなります。

この構築作業は主に行政を中心とした地域事業体に委ねることになりますが、それではビル管理はどのような視点でこの構築作業に取り組みばよいでしょうか。

ビルメンテナンスのコア技術である清掃管理は、環境衛生の向上を目的としていますが、美観商品化優先の趨勢のなかでその環境保全指向が必ずしも定まっていたとは言えません。私たちには、自分のコア技術（清掃事業）を環境技術（環境配慮型事業）へと応用進化させていく自律的業界ビジョンの確立が求められることになるでしょう。

また循環型社会においては、いま“グリーンコンシューマー”と呼ばれる環境配慮を持った消費者が増えています。私たちの生産現場においても環境保全に意識を持った従事者＝グリーン・クリーンクルーがリーダーとなって活躍する日が来るのを期待したいと思います。

《環境省が環境家計簿用に公表している二酸化炭素排出係数によれば、電力（kgCO₂ / kw）の値0.36に対し、紙くず（kgCO₂ / kg）のそれは1.65である。》

Message



(社)福岡県ビルメンテナンス協会 会長
青木 博志

関係各位の多大なるご協力に
心より感謝いたします。

「都市・ひと・自然」を考えることを目的とし、我々の仕事が都市と深い結びつきのあることを踏まえ、住みよい街づくりに貢献していくことを目指して、我々には何が出来るかを探っていくと考えて設定した「都市ビル環境の日」の記念行事が、今年で10回目を迎えることが出来ますのは、ご後援を頂いております福岡県をはじめ関係行政及び関係団体の皆様のご指導、ご協力の賜物と衷心より感謝申し上げますと共に、こうして、毎年継続して行えることに対し心から喜んでおるところでございます。

今年度は10月4日に「クリーンアップ福岡」を展開し、街の美化運動を行い、翌10月5日にはテーマを「ビル管理とリサイクル」と定め、シンポジウムを行います。

環境問題の一環として、廃棄物の処理問題やリサイクルの推進を目的とした促進法が整備され、ビルメンテナンス事業領域にも大きな責務が課せられるようになった今日、我々が目指すべきものを見出していければと考えているところであります。

しかしながら、廃棄物問題は我々だけで解決できるものではありません。日常行われる業務上のもののみならず、市民の方々の日々の生活のなかにも発生していることを考えますと、我々で出来ることと併せ、このことに係っておられる皆様方と共に手を組んで、この問題の解決に近づけることを希望するものであります。

建築物衛生法も一部改正され、建築物の衛生的環境の確保について更なる維持適正化を図る必要が生じたものと受け止めており、人の健康・生命に係る仕事のなかで、その責務の重さを十分に認識し、今後とも安全確保に全力を尽くして参りたいと考えているところでございます。

最後に、今日まで本行事に積極的に参加頂き、ご支援頂きました会員、賛助会員の皆様に心から謝意を表すると共に、関係各位には今後ともご指導、ご協力を宜しくお願い申し上げます。



福岡県知事
麻生 渡

廃棄物問題の解決に向けた
大きな成果を期待いたします。

「都市ビル環境の日'04」の記念行事が盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

貴協会は昭和54年の設立以来、建築物の衛生的環境や安全性の確保を目指して関係業者の指導育成などにご尽力され、快適な都市環境づくりにその成果を収めてこられました。

また、毎年「都市ビル環境の日」には、会員をはじめ、多くの方々の参加を得て公共の場の一斉清掃を行う「クリーンアップ福岡」を実施されています。協会の皆さまの熱意と御努力に感謝申し上げますとともに、心から敬意を表します。

近年、急激な産業経済の発展などにより自然環境や人間の健康にさまざまな影響をもたらす環境問題が各地で発生し、また、最近では、廃棄物の処理、ダイオキシン類をはじめとする化学物質対策やリサイクルの推進など、新たな課題に対する社会的関心が一層高まっています。

平成12年には循環型社会の枠組みとなる「循環型社会形成推進基本法」が施行され、翌年には、廃棄物の適正処理やリサイクルの推進を目的とした関連法が整備されました。このような流れの中、ビルメンテナンス業務にも循環型都市機能整備に向けての取り組みが求められるようになっていきます。

今回、「ビル管理とリサイクル」をテーマとしたシンポジウムを開催することは、都市生活における廃棄物問題を深く考え、対処・解決していく上で、大変意義深いものであり、大きな成果が上がることを期待しています。

県としましても、循環型社会の構築に向けて、リサイクル製品認定制度を創設するほか、リサイクル総合研究センターでの研究などを進めていきます。今後とも皆さまのご理解とご協力をお願いします。

記念行事のご成功と貴協会の今後のますますのご発展、会員の皆さまのご健勝を心から祈念します。



福岡市長
山崎 広太郎

（資源循環型社会の実現に向けた積極的な活動に敬意を表します。）



北九州市長
末吉 興一

（有意義なシンポジウムの成功を祈念いたします。）

「都市ビル環境の日」の記念行事が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

貴協会の皆様には、日頃から本市環境衛生行政の推進に多大なご尽力をいただくと共に、都市ビル環境の日には、毎年「クリーンアップ福岡」のキャッチフレーズの下、公共施設の清掃・美化に取り組んでいただき、深く感謝申し上げます。

さて、多数の人が利用する建物では多くの廃棄物が発生するため、「廃棄物の適正な処理」や「リサイクルの促進」が、大きな課題となっています。現在、多くの製品についてリサイクル可能なものが増えていますが、リサイクルを行う上での重要なポイントは分別収集にあると言っても過言ではありません。この分別収集の成否によって、廃棄物が資源として生き返るのか、単なるゴミとして終わってしまうのかが決定的に決まります。こうしたことを考えたとき、「ビル管理とリサイクル」というテーマでシンポジウムを開催され、廃棄物の再資源化と減量に取り組まれることは、大変有意義なものと考えます。

福岡市においては、ごみ処理量が年々増加しており、このため廃棄物の再資源化と減量の推進を市政の重要課題と位置づけ、特に大型建築物における廃棄物の再資源化と減量の推進、また、事業系古紙の回収システムの構築に懸命に取り組んでおりますが、これら施策を実現するためには、貴協会の皆様方のご協力が必要不可欠であります。貴協会におかれましては、今後とも、資源循環型社会の実現に向けて引き続き積極的に重要な役割を担って頂きますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、(社)福岡県ビルメンテナンス協会のご発展と会員の皆様のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

「都市ビル環境の日」の記念行事が盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

(社)福岡県ビルメンテナンス協会は、創立以来、建築物の快適な環境と安全性を確保するため、様々な課題に対して関係業界が一団となって取り組み、多大な成果を収めておられます。

また、毎年、都市ビル環境の日には、「クリーンアップ福岡」として各地の歩道、公園等での清掃・美化活動に取り組んでいただいております。会員の皆さまのご尽力に感謝申し上げますとともに、深く敬意を表します。

近年、私たちの生活は豊かで便利なものになりましたが、一方で資源やエネルギーなどを大量に消費するために、ごみや環境の問題に直面し、一刻の猶予も許されない状況になってまいりました。この問題を解決するためには、これまでの生活様式・産業構造を見直し、資源循環型の社会への移行が急務となっています。

北九州市では、現在、若松区響灘地区を中心に北九州エコタウン事業を力強く展開しています。このエコタウン事業では、あらゆる廃棄物を再度他の産業分野の原料として活用することで、最終的に廃棄物をゼロにすることを目指しており、「資源循環型社会」を創っていくため、産学官の連携のもと基礎研究から技術開発・事業化に至るまで様々な事業を進めているところです。

こうしたなか、建築物に関わる環境問題に着目され、「ビル管理とリサイクル」をテーマとしてシンポジウムを開催されますのは、大変意義深いことだと考えます。

皆さまには、このシンポジウムを契機に、快適な建築物環境の維持、発展に向けて大きく前進されることを期待します。

最後になりましたが、(社)福岡県ビルメンテナンス協会のご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍をお祈りいたします。

2004 都市ビル環境の日 シンポジウム

基調講演

講演タイトル「オフィスのゴミは訴える！！」



松藤 康司

福岡大学工学部教授
博士(工学)、技術士(衛生工学)

Profile

JICA、文部科学省、国連人間居住センター(ハビタット)関連で途上国での埋立地の技術協力、資源化等の調査研究も行っている。

略歴

1948年 福岡県生まれ
1971年 福岡大学薬学部卒業
1986年 福岡大学工学部助教授
1997年 同大学工学部教授
1998年 福岡市環境審議会委員
2000年~2001年 福岡市循環型システム研究会会長
2002年 福岡市総合計画審議会委員、福岡市地下水汚染対策委員会委員
2002年 循環のまち・ふくおか行動委員会会長

学会および社会における活動

1988年 海外研修員(国際協力事業団長期専門家)マレーシア国へ派遣
1997年 中国環境保護局分析計測研究センター招聘教授
1998年 国際連合人間居住センター(ハビタット)アドバイザー-コンサルタント
1985年 環境国立公害研究所客員研究員
1990年 廃棄物学会 理事
1993年 福岡市専門委員
1997年 福岡県公害専門委員

受賞など

1986年 環境調査センターから第7回環境賞
1987年 福岡大学から昭和56年度研究奨励賞
1999年 廃棄物学会から平成10年度有効賞
2000年 廃棄物学会から平成12年度優秀ポスター賞

パネルディスカッション

【コーディネーター】



金子 誠

Profile

(株)朝日ビルメンテナンス
代表取締役社長
1952年生まれ 早稲田大学卒
(社)福岡県ビルメンテナンス協会
理事 総務財政委員長・(社)福岡県
ビルメンテナンス協会 青年部顧問・
(社)全国ビルメンテナンス協会
BMネットワーク専門委員・(財)建
築物管理訓練センター九州支部 指導
講師副団長

【パネラー】



松藤 康司

Profile

福岡大学工学部教授
1948年生まれ 福岡大学薬学部卒
博士(工学)、技術士(衛生工学)。
JICA、文部科学省、国連人間居住セン
ター(ハビタット)関連で途上国での
埋立地の技術協力、資源化等の調査研
究も行っている。



兵藤 信彦

Profile

福岡市環境局 環境都市推進部長
1952年生まれ 長崎大学水産学部卒
1975年 福岡市役所 入所
1997年 農林水産局中央卸売市場市場課長
2002年 環境局環境都市推進部計画課長
2004年 現職



脇野 賢一

Profile

(有)井脇商店 代表取締役
1952年生まれ 山口大学経済学部卒
1976年 井上喜(株) 入社
1981年 (有)井脇商店 入社
2002年 現職
福岡市ペーパーリサイクル協同組合 副理事
長
九州製紙原料直納商工組合 副理事長



西田 俊郎

Profile

KBC開発(株) 不動産部 課長
1960年生まれ 九州大学経済学部経済工学科卒
テナントに古紙の細かな分別を徹底させるの
ではなく、逆に分別を簡素化することでリサ
イクル率を向上させるという発想と、テナン
トと清掃業者の協力したゴミ減量活動の実績
が評価され、福岡市より「平成14年度・ゴミ
減量・再資源化最優秀賞」を受賞



松本 正司

Profile

(株)旭商会 代表取締役専務
1948年生まれ 福岡大学附属大濠高等学校
卒
1981年 (株)旭商会 入社
1995年 現職
(社)福岡県ビルメンテナンス協会
理事 経営研究委員長・都市ビル環境
の日委員長

青年部の主張

「ビル管理とリサイクル」への取り組み

(社)福岡県ビルメンテナンス協会 青年部

わが国では、戦後経済成長を促したのは、まさしくアメリカを範とした大量消費文化の踏襲だったと考えられます。町中に物があふれ、「捨てる！」技術なるベストセラーが出たのも、つい4年前のことです。しかし、わが国の社会状況も一変し、ヨーロッパのドイツに代表される循環型社会の構築こそが急務とされています。当業界でも、ゴミ収集分別等、社会状況の変化を受け、業務内容の見直しが図られていることが明らかです。

そこで青年部では、2004年度『都市ビル環境の日』のテーマ「ビル管理とリサイクル」をうけ、歴史的にみたこれまでのリサイクルへの取り組み、また、世界のリサイクルの現況を研究してまいりたいと思います。

2004 都市ビル環境の日 「クリーンアップ福岡」

10年目という節目～継続は力なり！

株式会社 愛光ビルサービス 玉置 正基

2004年は参加することに意義があるオリンピックが開催され、「クリーンアップ福岡」も第10回という節目にあたります。毎年、行事の一環として参加されている協会および会員の清掃活動に、10年という歳月に大きな意義を感じております。

今では、県民および行政からも高い評価を頂けるまでに成長して参りました。振り返ってみますと、第1回目はこの

ように充実した活動内容ではなかった気がいたします。

会員の皆様の本日までの自主的で積極的な参加活動に感謝申し上げます。

10回目を迎えるに当たり「クリーンアップ&パワーアップ」を図り、広く県民の皆様にも愛される活動となるよう、福岡県ビルメンテナンス協会挙げて前進することをお誓い致します。

第9回「クリーンアップ福岡」スナップショット



会場案内図

九州エネルギー館

〒810-0022 福岡市中央区薬院4丁目13-55
TEL. (092) 522-2333



西鉄バス 城南線「南薬院」バス停
下車、徒歩約5分。
西鉄バス 浄水通「九電体育館前」
バス停下車、徒歩約1分。

主催

社団法人
福岡県ビルメンテナンス協会

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目15番12号 藤田ビル2階
TEL (092) 481-0431 FAX (092) 481-0432

後援

福岡県

協賛

財団法人ビル管理教育センター
社団法人福岡ビルディング協会
社団法人福岡県警備業協会
社団法人福岡県産業廃棄物協会
社団法人福岡県建築士会
日本環境管理学会九州支部
社団法人高層住宅管理業協会九州地方支部
全国管洗浄更生協会
社団法人全国建築物飲料水管理協会福岡県支部
福岡県管工事業協同組合連合会
福岡県ペストコントロール協会
福岡ガラス外装クリーニング協会
福岡県ビル管理協同組合連合会